

第43回蔵王坊平
クロスカントリー大会出場者

小学生男子1500円		
土屋 海音	蚕桑小4年	

小学生女子1500円		
金子 凜音	蚕桑小4年	
竹田あおい	荒砥小5年	
高橋 光希	東根小6年	
鈴木 里菜	鮎貝小6年	

中学生男子3000円		
石山琉汰朗	白鷹中1年	
高橋 航士	白鷹中3年	

中学生女子3000円		
児玉 光	白鷹中3年	
金田 千咲	白鷹中3年	

第13回蔵王坊平全国ジュニア駅伝競走大会
兼第21回山形県ジュニア駅伝競走大会結果

男子チーム 50分21秒(全国29位/県内29位)		
1区(3.0km)	小野 亨太	白鷹中3年
2区(1.9km)	菅 陽翔	鮎貝小4年
3区(2.8km)	齋藤 瑛仁	白鷹中1年
4区(1.9km)	湯澤 一徳	蚕桑小6年
5区(2.8km)	遠藤 大樹	白鷹中3年

女子チーム 途中棄権(全国一位/県内一位)		
1区(3.0km)	丸川 和紗	白鷹中3年
2区(1.9km)	菅 結愛	鮎貝小6年
3区(2.8km)	片倉 もも	白鷹中2年
4区(1.9km)	菅原 紗希	東根小6年
5区(2.8km)	中村 咲楽	白鷹中2年

駆け抜けた夏—— 気持ちをつないだジュニアランナー

8月5日、第13回蔵王坊平全国ジュニア駅伝競走大会兼第21回山形県ジュニア駅伝競走大会及び第43回蔵王坊平クロスカントリー大会が、上山市の蔵王坊平高原クロスカントリーコースを会場に開催されました。駅伝、そしてクロスカントリーに出場した選手19人は、約2カ月間積み重ねてきた練習の成果を十分に発揮。女子チームは、アクシデントにより残念ながら途中棄権となってしまいましたが、選手一人ひとりが熱い走り最後まで気持ちをつなぎきりました。

紅花生産量 白鷹町は今年も日本一

紅花加工品検品 今年の質も上々

8月28日、山形県紅花生産組合連合会による紅花加工品（すり花、紅餅、乱花）の検品作業が山形市内で行われました。検品では、生産者らによって色や乾燥の具合が確認されて1級もしくは2級の等級に分けられますが、白鷹町の実産者27人によって出荷された紅花加工品は、すべて1級品と認定されました。今年は高温少雨の天候により花も小さく、収納量の減少が懸念されましたが、県内全体の総収量は前年度の240.1kgを上回る260.7kgという結果になり、そのうち白鷹町の収納量は約6割を占める148kg（速報値）となりました。生産者の思いがこもった紅花加工品は、今年も全国へ出荷されます。

紅花摘みボランティアへのご協力ありがとうございました

日本の紅（あか）をつくる町連携推進本部では、紅花生産増加を目指し、町内小・中学校、高校、企業等へ紅花摘みボランティアの協力を募り、7月9日～13日にかけて、蚕桑、東根、荒砥、鮎貝の4小学校の5・6年生、荒砥高校、白鷹高等専修学校においては全校生徒の皆さん、総勢431人の生徒に十王八卦地区の観光紅花畑の紅花を摘んでいただきました。その結果、総収量は45kgで、十王八卦地区の皆さんにより4.5kgの紅餅に加工されました。また、ほかにも今季は町内企業の皆さんをはじめとする、一般のボランティア156人に182kgの紅花を摘んでいただきました。紅花生産者の皆さんはもちろん、ボランティアで紅花を摘んでくださった皆さんの力によって、今年も紅花生産日本一が達成されました。



1_紅餅が机の上に広げられ、一枚一枚その品質がチェックされた 2_暑い中、黙々と紅花を摘む児童たち

8月3日、山形県市町村教育委員会大会が寒河江市民文化会館で開かれ、その席上で、町教育委員会の前委員の竹田恵美さんへ表彰状と感謝状が贈られました。竹田さんは、平成21年10月1日から平成29年9月30日までの2期8年間の長きにわたり町教育委員会委員として地域教育の振興に尽力されたほか、保護者委員としても活躍されました。保護者委員は、地域で教育を受けている子どもの保護者の意向を反映することが望ましいことから任命されているものです。竹田さんには保護者の視点からのご意見や、スポーツに関する幅広い見識からのアドバイス等をいただきました。

竹田恵美さんに全国市町村教育委員会連合会表彰と 山形県市町村教育委員会協議会長感謝状

力されたほか、保護者委員としても活躍されました。保護者委員は、地域で教育を受けている子どもの保護者の意向を反映することが望ましいことから任命されているものです。竹田さんには保護者の視点からのご意見や、スポーツに関する幅広い見識からのアドバイス等をいただきました。



感謝状を手にする竹田さん



優しく温かい歌声を響かせた少年少女合唱団

心ひとつに永久の平和を祈る 白鷹町平和祈念事業

終戦記念日の8月15日、町文化交流センター「あゆむ」において平和祈念事業が行われました。式典には町関係者など約100人が参列し、過去における戦火により犠牲となられた方へ黙祷が捧げられました。続いて、新成人代表の長岡拓海さん（鮎貝）

と樋口悠香さん（鮎貝）により平和都市宣言が朗読され、平和へのメッセージ、献花・折鶴献呈が行われました。そして最後に、町少年少女合唱団による平和への賛歌が歌われ、その優しい歌声とともに参列者一人ひとりが平和への祈りを捧げました。



①施設の完成イメージ ②あいさつを述べる新野理事長

高西中学校の跡地に移転新築される特別養護老人ホーム白光園の起工式が8月27日、現地で行われました。社会福祉法人白鷹福祉会（新野晃敏理事長）が運営する現白光園は、昭和55年に50床で開所。その後、増築を繰り返し、現在は長期入所110床、短期入所30床で経営している状況ですが、利用者の居住環境改善に向けて個室化を目指して

検討を重ねてきました。そしてこのたびの施設移転が決定したことに対し、新野理事長は「多くの方の協力があった実現に至った。地域の皆さんにもきつと喜んでもらえる施設になると思う」とあいさつしました。施設は、延べ床面積約7800平方メートル、町産材をふんだんに活用した木造平屋建て。長期入所は120床で全個室、短期入所は従来型で20床となります。工期は平成32年1月31日までで、同年春にオープン予定です。

高齢者のより住み慣れた環境を目指し 新特養建設工事起工式

検討を重ねてきました。そしてこのたびの施設移転が決定したことに対し、新野理事長は「多くの方の協力があった実現に至った。地域の皆さんにもきつと喜んでもらえる施設になると思う」とあいさつしました。